

<金標準、中国やインドの金需要が増加傾向を示す・・・>



(出所：オアシス)

トランプ関税に対する米国の卸業者 2 社が提訴した最高裁での口頭弁論が始まり、トランプ大統領が大統領令を盾に世界各国に輸入関税を課した行為は、大統領の権限を離脱しており、関税の権利は議会にあると指摘するなど、トランプ関税に対するリスクが後退している。また香港で開催された金融サミットでは、参加したモルガン・スタンレー や ゴールドマン・サックス CEO が「今後大幅な売りが発生する可能性がある」と発言した事からリスク逃避の動きが加速し、金標準先物も 20000 円を割り込む値動きを見せている。

しかし中国人民銀行は 10 月も金保有を増やし、先月末時点の金保有は 7409 万トロイオンス (2304 トン) となり、12 カ月連続での買い増しを行っている。また WGC の報告書によると、インドの金 ETF の金保有量は 83.5 トンになるなど、依然と金需要の動きは衰えていない。そのため一時的に金標準先物も 20000 円を下回る動きを示すも、下値を固める雰囲気であり、20000 円以下は買われる動きを示す可能性は高まると思える。

#### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げ渋り、シグナルは下げている。RCI は短期が上昇し、長期は下げている。特に指数平滑移動平均線のレンジが横ばいした状態で推移しており、底堅い雰囲気を見せており、20000 円の攻防が続くと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,880,000 円(2025 年 11 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 11 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>